

しが国際協力親善大使レポート

まえがわ てっせい
前川 哲成さん

隊次：2015年度3次隊

職種：体育

派遣国：ウガンダ

自己紹介

滋賀県栗東市出身。大阪浪人生活時代や京都での大学生生活時代、そしてウガンダ生活が1年過ぎた現在。いつでも思い出すのはあたたかく、美しいふるさと滋賀県の情景です。そんな滋賀県と同じ湖国ウガンダを繋ぐ琵琶湖大橋になりたいという思いを胸に、日々活動しています。

ウガンダについて

ウガンダは肥沃な大地と恵まれた気候から「アフリカの真珠」、「緑の国」とうたわれ、数多くの穀物や果物、野菜が有機農業で栽培されています。特にパイナップルとバナナの美味しさは格別で世界一甘くて美味しいと評する人もいるほどです。主食はポシヨ（トウモロコシの粉をこねたもの）、マトケ（料理用バナナ）、イモ類で、チキン・ヤギ肉・牛肉などのスープと一緒に食べるのが一般的です。また、“ロレックス”（卵と野菜をチャパティで巻いたもの）という名のローカル屋台飯があり観光客から旨いと評判になっています。

ナイル川の源流である白ナイルがウガンダにはあります。アフリカ大陸最大の湖ビクトリア湖では漁業が盛んで、湖面を眺めていると故郷の琵琶湖が恋しくなります。

活動や生活について

私はウガンダ東部、エルゴン山の中腹に位置するセバイカレッジテグレスというセカンダリースクール（日本でいう中高等学校）で一、二年生に体育を教えています。標高約2000mという高地のため年中を通して朝晩の冷え込みが激しく、ヒートテックや厚手の毛布は欠かせません。アフリカ=暑いとイメージしていた私には驚きの寒さでした。高地という恵まれたトレーニング環境で練習を積んだ配属先の学校の卒業生には、オリンピックマラソン金メダリストのキプロティチ選手がいます（リオでは残念ながら14位）。日本の学校の体育大会では短距離種目で盛り上がる印象が強いですが、私の学校では長距離種目が非常に盛り上がります。陸上の他にはサッカー人気は圧倒的に強いです。ボールを持っていない村の子供たちもゴミ袋を器用に丸めてカバーボールというものを自作してそれを蹴って遊んでいる姿をよく見かけます。

ウガンダのセカンダリースクールでは、6年前に体育授業が必須になりましたが体育授業

を実施している学校は少なく、仮に実施をしていたとしても「先生が子供にサッカーボールを渡して、はいおしまい」ということが珍しくありません。私が赴任した当初も生徒たちの反応はといえば「JUST GIVE ME A BALL」でした。ただボールを渡すだけでは学びは生まれません、体育を通して何かを吸収してほしいと思っていた私はバスケットボール、ラグビーに野球、リズムダンスなど多様なスポーツや運動を授業内に取り入れました。その結果、生徒たちのなかに“協力する姿勢”や“ルールを守る姿勢”が芽生えはじめ体育・スポーツの持つ教育的価値を身に染みて感じる事ができた1年になりました。とはいうものの、子供たちから教えてもらうことや改めて気づかされることが多いのが教師という職業だと強く感じた1年でもありました。これからもそのような幸せな環境に感謝しつつ、元気に活動していきたいと思えます。



授業後の生徒たちと



同僚の娘の参観日に参加



街の肉屋さん1キロ250円くらい



満員御礼となった野球大会